

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2016年6月

2015年度規格部会報告

日本プラスチック工業連盟の規格部会では、ISO/TC61(プラスチック)、ISO/TC138(プラスチック管・継手)及び電気材料安全の規格に関する活動を行っている。規格部会では、2015年度の実績と2016年度の計画について審議した。以下に概要を示す。

1. 国際幹事国引き受け

ISO/TC61及びISO/TC138は、日本プラスチック工業連盟が国内審議団体となっている。ISO/TC61の傘下に10個のSCがあり、そのうち3個のSCは日本が幹事国となっている。また、ISO/TC138については、TC138及びTC138/SC8で日本が幹事国である。日本は全部で5個の幹事国を引き受けており、2016年度においても適切に幹事国業務を遂行し、日本のプレゼンスを示していく予定である。

2. 年次会議開催

ISO/TC61、ISO/TC138いずれも、年1回年次会議を開催している。開催期間は一週間(月曜～金曜)である。年次会議では、TC、SC及びWGの会議が開催され、規格の開発段階の進捗承認等の重要な決議が行われる。ISO規格の開発を行うには、年次会議への出席は不可欠である。

2015年度のTC61の年次会議は10月にインドのデリーで開催された。全体の参加者数が約200名に対して、日本からは50名以上が出席した。TC138の年次会議は10月にドイツのベルリンにて開催され、全体の参加者数123名に対して、日本からの参加者は12名であった。

年次会議開催にはメンバー国からの開催国の申出が必要である。近年、年次会議の開催国の申出が少なく、毎年開催が危ぶまれていた。そこで、日本は2016年のTC138年次会議及び2018年のTC61年次会議を日本で開催することとした。この数年間は年次会議の開催準備等で多忙となるが、ISOへの貢献として重要と考える。

3. 国際標準化活動

ISO規格関連の業務としては、1)開発段階を進捗させるため又はISO規格の定期見直しのための投票 2)日本提案の標準化開発 及び3)幹事国業務がある。2015年度はTC61関連では187件、TC138関連では92件の投票を行っている。同様な投票件数が2016年度も見込まれる。

日本提案の標準化は、ISOにおける日本のプレゼンスを維持・向上するためにも重要である。TC61では、2015年度に新たに発行されたISO規格又は現在の開発中の案件の内、日本提案が基になっている件数はいずれも全体の20～30%を占めており、日本の存在感は大きい。日本提案としては次のようなものがある。

- －炭素繊維強化プラスチックの物性評価方法
- －樹脂-金属複合体の界面接着強度の評価方法

- －複雑系プラスチック（アロイ等）の熱的特性又は分子量分布の測定方法
- －封止材の気体透過性の評価方法
- －FT-IRによる熱硬化性樹脂の硬化度の測定法

一方、TC138では、長らく日本からの規格提案はなかったが、2015年度は「耐圧ポリエチレン管」に関する日本提案を行い、規格開発をスタートした。2016年度は上記開発テーマを継続すると共に、新たなテーマを加えて標準化開発を進める計画である。

幹事国業務とは、幹事国を取っているTCまたはSCを運営する業務のことであり、選任された議長及び幹事が業務を行う。具体的な業務としては、投票の設定、年次会議の運営、メンバーへの情報発信等がある。

4. JISの開発

国際規格であるISOにおける標準化活動を行うと共に、国家規格であるJISの開発を行っている。ISO規格と基本的に内容が一致するようにJISは作成している。日本プラスチック工業連盟では、TC61及びTC138の分野のJISの作成を推進している。

JISの開発には、1) 新たに制定されたISO規格をJISにする、2) 改正されたISO規格に対応してJISを改正する、3) ISO規格とは関係なく別個にJISを制定する場合がある。3)の場合は作成したJISの内容をISOに提案してISO規格にする場合もある。2015年度は前年度からの継続案件も含め13件のJIS原案の作成を進めた。2016年度も同程度のJIS原案の作成を見込んでいる。

5. 電気材料安全

電気製品に使用されるプラスチックの安全性と信頼性に関する情報を得るために、日本プラスチック工業連盟は、IEC規格、UL規格等の国内委員会にメンバーとして参加している。2016年度も2015年度と同様に、各国内委員会に委員を派遣し、連盟内で情報を共有し、各企業にて材料開発に反映させる予定である。

以上